

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2012年1月
第7号
(年4回発行)

新年号

発行部数3千部



「新年にむけて」／丹羽義昭住職インタビュー

シリーズ浄土宗／浄土宗大本山増上寺と徳川将軍家

実践教室／浄土宗の合掌礼拝

● 新年開運七草粥法要のご案内

● 厄払い節分会法要のご案内

今年も残りわずかで新しい年を迎えることになり、一年を振り返ると、地震や台風、水害など日本では大きな災害に見舞われ、厳しい年だったように思われます。

そんな中でも、立ち上がり前に進む力強さや、助け合う暖かさ、人との絆の大切さを改めて感じ日本人の意識を変える一年でもありました。新年を迎えるにあたりご住職にお話を伺いました。



西願寺本堂内陣



丹羽義昭住職

問 今年は、三月にあった大震災で社会も大きく変わる一年でしたね。

住職 そうですね。私の知っている陸前高田にあるお寺も被災され、何かお手伝いできることがあれば、と何人かで六月ごろに行ってきたのですが、現地のその爪痕をみて被害の大きさに衝撃をうけました。

問 大地震の日から半年以上経ち、徐々に元を取り戻してきたように思うのと同時に、様々なメディアで取り上げられている被災地の方々に力強さを感じますね。

住職 まわりの近しい方が亡くなって、初めはただ茫然と悲しみにくれていた人たちが経つにつれ、「生きていかなくちゃ、残った我々がなんとかしなくちゃ」という思いが、力強さになっているのではないでしょうか。完全な復興には、まだまだ時間がかかると思いますが、私たちも、痛みに寄り添い、共に立て直していくという思いを持ち続けることが大切だと思います。

問 本当にそうだと思います。また、東京では、気持ちの上での変化が多くあったと聞きます。一人でいることの心細さであったり、家族や友人、人との絆、つながりを改めて考えるようになったとか。

住職 それは実感しますね。例えば、我々も毎年町内会を運営している中で新しくできた住宅地やマンションなどなかなか入会世帯が増えない地区があったのですが、今年度は今回のような災害にあった場合、町会に入っていれば情報も入ってくるし、助け合える心強さもあることをお話しさせて頂きました。その甲斐あって今年度は多くの方が町会に入ってくれました。

問 確かに人の多い住宅地だったとしても、生活時間帯の違いもあり孤立してしまうことがありますし、今回の経験から皆さん隣、近所のつながりの大切さを実感されたのかもしれませんがね。話しは変わりますが、もうすぐ年末、そして年始を迎えます。ご住職

の子どものころの思い出などありますか？

住職 うーん。そうですね。うちのお寺は、私が小学校の四年生の時に火事にあい庫裡や本堂が焼けてしまったのですが、その前は、大掃除といってご本尊さまのすす払いも含め、畳をあげて、障子をはがして、境内の掃除をしてと三人兄弟で手分けしても掃除だけで日が暮れていました。そうそう、その当時は五右衛門風呂で、木を切って薪を作ったりもしました。

問 薪で沸かしたお風呂は、私は経験がないのですが、やはりお湯が違ったりするのですか？

住職 どうなのだろうね。その頃は、それが当たり前だったから……。ただ、周りが鉄だから熱くなるので気を付けて入らないとやけどをするし、効率よく入らないとどんどん冷めちゃうというのはよく覚えていますよ（笑）。

問 なかなか緊張感のあるお風呂タイムだったわけですね。（笑）。

住職 その時は大変でしたけど、それも思い出ですね。

問 新しい思い出を増やすという意味だと、こちらでは、平成23年から新年の行事として、七草粥法要と二月には節分の豆まきもされるそうですね。最

近では、特に豆まきなど家庭ではやらないというお宅もあるようですから心に残る楽しい思い出になるのではないですか。

住職 はい。七草粥も豆まきもどなたでも参加できる行事ですし、日本らしい季節感のある行事ですので皆さん気軽に足を運んで頂きたいと思っています。節分法要では、お申込みのあった厄年の方に厄払い法要もしております。

問 最近、電車の中で退屈そうに「何かいいことないかなあ」と言っている会話を耳にしたのですが、そういう人たちにも来て欲しいですね。

住職 そうですね。ただ、私は、幸せは自分の中にあるものだと思います。法然上人のよまれた歌に

「月影のいたらぬ里はなけれどもながむる人の、心にぞすむ」というものがあります。

月の光は誰にでも平等に降り注いでいるけれど、月を眺めた人にしかその光があるということに気づくことができませぬ。歌の意味となる教えは、阿弥陀さまは月の光のようにすべての人を平等に救ってくださるという本願をたてたけれども、それに気づき南無阿弥陀仏の念仏を称えた人だけが

阿弥陀さまの本願によって極楽浄土に生まれることができるというものです。

同じように、受け止める私たちによって幸せに感じたり、それに気づくことができなかったりと結果が変わってしまう。物事は自分がどう思うかで決まっていくのじゃないかな。

問 なるほど。法然上人の歌はともわかり易いですね。最後に、新年を迎えるにあたり、ご住職から読者の皆様にもメッセージをお願いできますか？

住職 はい。一年のはじまりは、何か心に誓いを立てたり、新しくことを考えるのにとってもいいですよ。ですから、「今年はどうしたい」「こうしよう」と希望を持って欲しいと思います。希望を持つという事が生きる喜びになって前に進むエネルギーになるのではないかな。

問 わかりました。では、新年はちよつと大きめに夢を持って誓いを立てたいと思います。（笑）

本日はありがとうございました。



「浄土宗大本山増上寺と

徳川将軍家」

浄土宗の七大本山のひとつである、増上寺は正しくは
さんえんざんこうどういんぞうじょうじ
三縁山広度院増上寺といえます。

増上寺は、明徳四年（1393年）、武蔵国豊島郷貝塚、
（現在の千代田区平河町から麹町にかけての土地）に浄
土宗第八祖西誉聖聰上人によって、開かれました。

安土桃山時代、徳川家康公が関東の土地を治めるよう



になつてまもなく、
徳川家の菩提寺と
して増上寺が選ば
れ、江戸時代には
全国の浄土宗の宗
務を統轄する総録
所が置かれるなど、
京都の浄土祖山・
知恩院に並ぶ位置
を占め、その隆盛
を極めました。

天正十二年（1584年）増上寺十二世に就任した源誓存
応上人は、その六年後に徳川家康公と出会い二人の間に師檀
の關係が結ばれ、増上寺は徳川家の菩提寺となります。

『新撰往生伝』『開運録』によると、その出会いは、天正十八
年（1590年）八月、家康公が、豊臣秀吉から北条氏の領
国をもらい受け江戸城に入城するため、駿河（現在の静岡県）
から行列をつくり東上している道中、増上寺門前でのことだ
つたと伝えられています。

貝塚から一時日比谷へ移った増上寺は江戸城の拡張に伴い
慶長三年（1598年）、現在の芝へ移転しました。江戸幕
府成立後には、家康公の手厚い保護もあり、増上寺の寺運は
大隆盛へと向かっていったのです。

現在、増上寺には、二代秀忠公、六代家宣公、七代家継公、
九代家重公、十二代家慶公、十四代家茂公の6人の将軍と各
公の御台所（正室）、側室、子女など全部で三十八人が埋葬
されています。

旧徳川将軍家霊廟は御霊屋ともよばれ、増上寺大殿の南北
に建ち並び壮麗なものであったと伝えられ戦前国宝に指定さ
れていましたが、戦火により焼失し、わずかに残った建物も
その指定を解除されました。

昭和33年、文化保護委員会が中心となり詳細なる学術調査
が行われ、発掘された土葬のご遺体は桐ヶ谷にて茶毘にふさ
れ現墓所に改葬されました。

浄土宗の合掌礼拝

おつとめの基本は合掌^{がっしょう}礼拝^{らいはい}です。お経や念仏をとなえるとき、始めと終わりに合掌礼拝を忘れないようにしましょう。

浄土宗の合掌は「堅実心合掌^{けんじつしんがっしょう}」といわれるもので、仏さまと自分が一心同体であり、仏さまに帰依するしつかりとした気持ち、心構えを現しています。

堅実心合掌は、両手のひらと指とを隙間のないようにぴったりと合わせ指をまっすぐに伸ばし四指のあいだを閉じます。親指と人差し指のあいだは数珠をかけることが多いので自然に開きます。合掌した両手は胸の前でやや向こう側に倒します。この時、腕と体の角度が45度になるのが美しく、自然な姿です。

浄土宗の礼拝は、上品・中品・下品の三通りがあります。

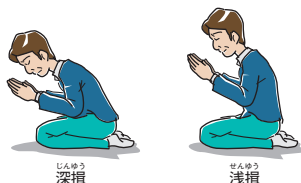
上品は正座して合掌した姿勢から立ち上がり、再び正座し、額が床につくまで深くお辞儀をし、両手は手のひらを上にし、耳の横に置きます。

中品は上品を簡略化したもので、正座して合掌した姿勢から、一度、軽く背を反らすようにし、それから腰が90度折れるようにお辞儀します。手は上品と同様に、耳の横に置き、手のひらを上に向けます。

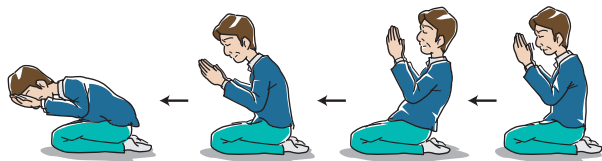
下品は合掌しながらお辞儀をするもので、浅く屈する浅揖^{せんいつ}（約15度）と、深く屈する深揖^{じんいつ}（約45度）とがあります。

私たちが普段、家庭でおこなう日常のおつとめでは、この下品の礼をします。

■下品の礼拝の仕方



■中品の礼拝の仕方



暮らしの中の 仏教語

「歓喜」[かんき]

年の暮れになると、ベートーベンの「歓喜の歌」（交響曲第9番）がどこからか聞こえてきますね。歓喜とは、非常に喜ぶこと、心からの喜びという意味ですが、仏教では「カンギ」と読み宗教的な満足を、全身心をあげて喜ぶことを意味します。仏典には、仏の教えや仏の名号を聞いて、歓喜踊躍することが、よく説かれています。

法然上人の弟子で浄土真宗の開祖親鸞聖人は『一念多念証文』の中で「観は身をよろこばせ、喜は心をよろこばせることで、往生が確かに得られると信知して、結果を得る前から、あらかじめ喜ぶ心」と説かれています。

新年も歓喜あふれる毎日が送れますように。



新年開運七草粥法要のご案内



西願寺の年初めの行事として、無病息災を祈願した「開運七草粥法要」を開催いたします。

どなたでもご参加できますので気軽に足をお運びください。

日時 平成24年1月7日(土)
 10:30 受付
 11:00 新年開運七草粥法要
 11:30 七草粥サービス

参加費 無料

七草粥

「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ、春の七草」

春の七草をお粥にして1月7日に食べる風習は、江戸時代に広まったそうです。七草は、早春にいち早く芽吹くことから邪気を祓うといわれていました。そこで、無病息災を祈って七草粥を食べたのだとか…。



厄払い節分会法要(豆まき)のご案内

西願寺では、節分会法要を開催いたします。当日は、厄払い法要の後、関取による豆まきが行われます。

平成24年度に前厄、本厄、後厄にあたる善男善女の方は是非お申込みご参加ください。

日時 平成24年2月3日(金)
 10:00 受付
 10:30 節分会法要
 11:30 豆まき

冥加料 10,000円(祈祷料、会食代)

※尚、豆まきののみのご参加は、浄財としてお賽銭(灯明料)をお願いいたします。

■参加申し込み・お問合せ
 西願寺 TEL.048-925-1723



各行事の参加申し込み・お問合せは
 西願寺までご連絡ください

TEL.048-925-1723
FAX.042-925-1789

第2回 お月見コンサート開催報告

去る、10月14日、西願寺本堂にて第2回お月見コンサートが開催されました。今回のコンサートは東日本大震災復興チャリティーを兼ね参加費の一部が寄付されました。お寺で聞くフルートの音色や美しい歌に参加された方々も心温まる秋の夜を過ごされました。

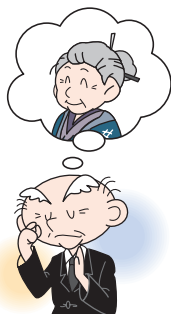


掲 示 板

平成24年 年回表

年ごとの命日を祥月命日といい、年回にあたった年の、この日に行う法要が年回（年忌）法要です。この法要では亡くなった方とご縁のある方が集まり、故人を偲びながらお勤めします。

- 1周忌 平成23年逝去
- 3回忌 平成22年逝去
- 7回忌 平成18年逝去
- 13回忌 平成12年逝去
- 17回忌 平成8年逝去
- 23回忌 平成2年逝去
- 27回忌 昭和61年逝去
- 33回忌 昭和55年逝去
- 37回忌 昭和51年逝去
- 50回忌 昭和38年逝去
- 100回忌 大正2年逝去



彩の都メモリアルパーク 管理事務所 年末年始休業のお知らせ

◆年末年始休業日◆

平成23年12月28日(水)～

平成24年1月4日(水)

年末年始の休業期間は花、線香の販売および管理事務所における事務手続き、電話問い合わせなどの業務はおこなえません。

尚 墓所へのお参りは通常通り開門しておりますのでご自由にいらしてください。



西願寺 平成24年 年間行事案内

- ※1月 1日(日) 修正会
(新年をむかえての法要＝おつとめ)
- ◎1月 7日(土) 新年開運七草粥法要 (無病息災)
- ◎2月 3日(金) 厄払い節分法要
- ※2月15日(水) 涅槃会 (お釈迦さまの命日)
- ◎3月17日(土) 春の彼岸会
～23日(金)
- ※4月 8日(日) 灌仏会 (花まつり)
- ◎7月13日(金) お盆会 (東京棚経)
- ◎8月13日(月) 旧盆会 (地元棚経)
- ◎8月18日(土) 大施餓鬼会
- ◎9月19日(水) 秋の彼岸会
～25日(火)
- ◎10月12日(金) 第3回十三夜お月見コンサート (予定)
- ※11月23日(金) 十夜会
(念仏をとなえて善根をつむ法要＝おつとめ)
- ※12月8日(土) 成道会 (お釈迦さまのお悟りの日)
- ※12月25日(火) 仏名会
(念仏をとなえて一年を反省する法要＝おつとめ)



毎月25日は 念仏会を開いております

◎印は予定をたてて是非ご参詣ください。

※印は現在、寺だけで自主的に行っている法要＝おつとめです。

■お便り募集■
編集部では皆さまからの便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。紙面でご紹介させて頂きたいと思えます。また、「皆さん」についてのご感想もお待ちしております。

◆イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「皆さん」編集部
東京都千代田区飯田橋四・七・十一 カクタス飯田橋ビル7F
FAX 03 (3266) 1366
Mail: info@io-co.net

■次号予告

次号は平成二十四年二月発行予定の「春のお彼岸号」です。



◆編集後記◆

兎年だった平成二十三年は、本当の兎のようにぴよんぴよんと駆け足で過ぎてしまったように感じるのは私だけでしょうか？ そんな中でも、忘れられない大きな出来事は三月に起こった東日本大震災でした。今もまだ復興の途中ではありますが、被災地の皆さま、また、それを支える他県の私たちも共に力強く明るい年となるよう願いをこめて新年を迎えたいですね。

さて、今回の「さんが」新年号では、「七草粥の会」「節分法要」などなど、お知らせすることが沢山ありページがいっぱいになってしまいました。ご住職のテーマ「お寺を集いの場に」の言葉のとおり様々なイベントが企画実行され、西願寺は益々活気のあるお寺へと進化しています。実は、私も十月のお月見コンサートに参加させて頂きとっても楽しいひと時を体験しました。次は、豆まき!...かな。

平成二十四年より、「さんが」は、今までの新年号、お盆号に加え、春秋のお彼岸号の年4回発行予定です。皆さまに楽しんで頂ける紙面作りに更に頑張りたいと思います。新年もどうぞよろしくお願い致します。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三〇〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三〇〇一〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部